

上州沼田真田の里

沼田城址

(沼田公園)



沼田市観光協会

ビューポイント

谷川岳や武尊山、三峯山、戸神山などの山々を眺めることができます。また、名胡桃城方面も見ることができます。



ビューポイント

へいはちし 平八石

(首さらし石)

沼田平八郎景義は、沼田氏十二代頭泰と側室の間に生まれました。沼田氏内乱で越後(一説では会津)へ逃れた平八郎は流浪の末、東上州女洲で再起の機をうかがい、天正9年(1581)、沼田氏再興の兵を起こし、再興を目前に伯父の金子美濃守などの手によって水の手曲輪の露と消えた。平八郎の首をさらした石が今に残ります。



てんしゅあと 天守跡

おおもんくつし 大手門沓石



英霊殿の東側が天守跡推定地です。英霊殿鳥居付近で大手から移された大手門沓石が見られます。真田時代の絵図には五層の天守が描かれており、天守は9間×10間(約18m四方)の方形で石垣の高さは8間(約16m)あり天守推定地の付近では金箔瓦も発見されています。江戸城天守が焼失すると、関東で五層の天守を持つ城は沼田城だけの時もありました。



にしやぐらだい 西櫓台 石垣・石段



こてんざくら 御殿桜のある所が西櫓台跡です。そこには真田氏時代の石垣と石段を見る事ができます。天和元年(1681年)真田氏5代藩主信利が改易とされ、その時城は破却となりました。その後再建されることはありませんでした。

こてんざくら 御殿桜



にしやぐらだい 西櫓台の石垣上に大きく枝を張る桜の木が、エドヒガンザクラです。こてんざくら 「御殿桜」という愛称で沼田市民のシンボルになっています。

しょうろう 鐘楼



鐘楼は、明治31年頃旧沼田町役場の裏手に建てられ、時を告げていましたが、昭和58年に公園に再建されました。城鐘は2代藩主真田信吉が铸造し、時を告げていましたが、現在はレプリカを用いており、実物(県重文)は沼田市歴史資料館(テラス沼田2階)に展示しています。

ほんまるほりあと 本丸堀跡



この堀跡は本丸から二の丸の間に作られたもので、堀幅12間(約24m)×堀高3間(約6m)と正保城絵図に書かれています。写真中央よりやや上にある石垣は、当時のものです。平成27年の調査で多くの瓦と石垣の下段部分、裏込め石が見つかりました。

お問い合わせ

(一社)沼田市観光協会
観光案内所

〒378-0042
群馬県沼田市西倉内町2889-3
TEL 0278-25-8555 FAX 0278-25-8556
<http://www.numata-kankou.jp>



練馬 IC

関越自動車道
1時間30分

海老名 JCT

圏央道・関越道
2時間

東京駅

上越新幹線
1時間20分

上毛 高原駅

関越交通バス
25分

上野駅

JR高崎線・上越線
2時間40分

沼田 IC

車10分

沼田駅

関越交通バス3分
タクシー3分
徒歩約15~18分

沼田城址(沼田公園)

天空の城下町 沼田

北関東の軍事上の要衝であり、諸大名が欲しがった土地である

沼田氏と沼田城

沼田市は群馬県の北部に位置し、四方を山に囲まれた沼田盆地を中心として、三方に利根川・薄根川・片品川が流れ、特に片品川周辺には河岸段丘が発達しています。この段丘先端部(沼田公園)に最初に城を築いたのは、鎌倉時代以来この地方の有力者であった沼田氏十二代万鬼斎顕泰で、天文元年(一五三二)頃と云われています。

倉内城とも呼ばれたこの城は、北陸から関東へ至る要衝の地にあり、越後の上杉氏や小田原の北条氏、甲斐の武田氏などの戦国大名により激しい争奪が繰り返られることになりました。

天正八年(一五八〇)、武田勝頼の命により吾妻方面から進出してきた真田昌幸は沼田城を攻略し、さらに翌九年には沼田城の奪還に成功した沼田平八郎景義を謀殺して沼田氏を滅亡させました。しかしこれ以降、この地の領有を主張する北条氏とこれに応じない真田氏との間で沼田城をめぐる攻防が続きました。豊臣秀吉の裁定(惣無事令)により、沼田は北条領・名胡桃城は真田領とされましたが、不法に北条方が名胡桃城を攻略したことが契機となり、豊臣秀吉の小田原攻めにより北条氏は滅亡しました。

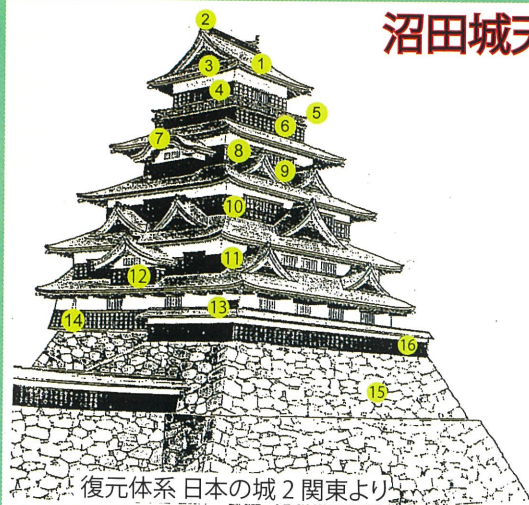
秀吉は真田氏に信濃二郡と利根・吾妻の旧領を安堵し、昌幸は沼田城を嫡子の信幸に与え信濃国上田へ移りました。

真田信幸、沼田城主へ

真田信幸は、天正十八年(一五九〇)、沼田領二万七千石の初代沼田城主になると、長い戦乱で疲弊していた沼田領内の復興につとめ、年貢の減免、田畑の開拓、町割等を行い、また、五層の天守閣や櫓、門などを建造し近世城郭として整備をおこないました。城下町沼田の基盤を造り、ここに安泰の世をもたらしました。

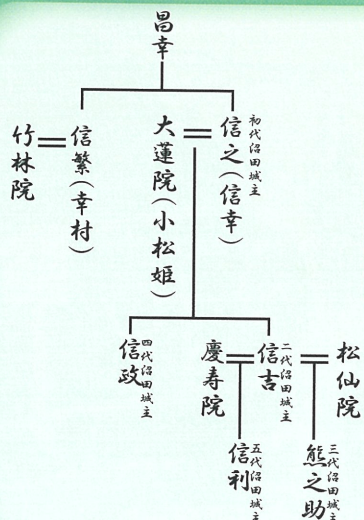
沼田城天守推定復元図

- ①入母屋屋根
- ②鯨
- ③木連格子
- ④五重(六階)
- ⑤高欄
- ⑥外縁
- ⑦唐破風
- ⑧四重
- ⑨千鳥破風
- ⑩三重
- ⑪二重
- ⑫切妻破風の石落し
- ⑬一重(一階)
- ⑭石落し
- ⑮天守台石垣
- ⑯堀、内側は武者走り



復元体系 日本の城 2 関東より

真田氏家系図



信幸から 信之へ

真田氏の名を世に知らしめたのが、慶長五年(一六〇〇)の天下分け目の関ヶ原の戦いです。石田三成方についた父・昌幸、弟・信繁に対し、信幸は徳川家康方につきました。敵味方に分かれ戦うことになったのです。



関ヶ原の合戦以後、信幸は真田家の通字「幸」を捨て、名を「信幸」から「信之」に改めています。

信之を支えた、小松姫

徳川四天王の一人、本多忠勝の娘で、徳川家の養女として真田家に嫁ぎました。小松姫は才色兼備でしつかりとした女性であったことが次の逸話からうかがえます。親と子、敵味方に分かれ関ヶ原の戦いに挑むことになった時、沼田城にいた小松姫は沼田城に立ち寄った父・昌幸と、弟・信繁を受け入れませんでした。鎧に身を固め大手門に姿を見せ、

「たとえ父や弟でも今は敵…」と氣丈に振る舞ったといわれています。

元和六年(一六二〇)に病により、療養のため江戸から草津に来る途中の二月二十四日に武蔵国鴻巣で没し(四十八歳)、分骨され同所の勝願寺・沼田の正覚寺・上田の芳泉寺にそれぞれ葬られました。

その後の沼田城

真田氏改易後、真田領は一時的に代官支配となりましたが、元禄十六年(一七〇三)本多正永が幕府より沼田領を奉領し、城の復興を命ぜられ二万石で入封しました。しかし、城の本格的な復興はなされず、館御殿を造り、城破却で埋められた堀の整備や土塁の構築などが行われたのみでした。

本多氏三代のあとは再び代官支配となり、その後享保十七年(一七三二)黒田直邦が二万五千石で入封し、二代続きました。寛保二年(一七四二)には土岐頼稔が三万五千石で入封し、土岐氏は十二代頼知で明治維新を迎えて沼田城は廃城となりました。

現在の沼田城跡(公園)

現在、本丸・捨曲輪と二の丸・三の丸跡の一部が沼田公園となっています。本丸跡に西櫓台と石垣、本丸堀の一部がみられ、わずかに城の名残を留めています。

市の木である「桜」や、「つつじ」また、四季折々の花が咲き誇り、訪れる人々を楽しませています。本丸跡には鐘楼が再建され、真田信吉が建造させた城鐘(レプリカ)が吊り下げられ、朝夕六時に時を告げています。実物(県重文)は歴史資料館に展示しています。

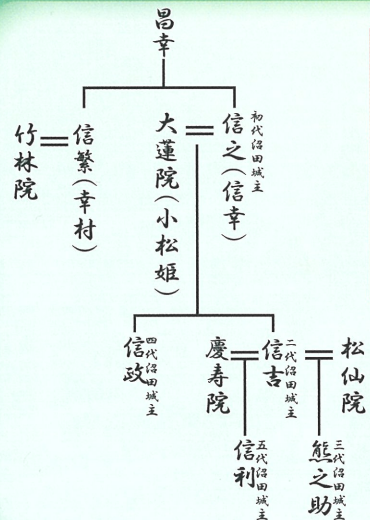


秀吉は真田氏に信濃二郡と利根・吾妻の旧領を安堵し、昌幸は沼田城を嫡子の信幸に与え信濃国上田へ移りました。

真田信幸、沼田城主へ

真田信幸は、天正十八年（二五九〇）、沼田領二万七千石の初代沼田城主になると、長い戦乱で疲弊していた沼田領内の復興につとめ、年貢の減免、田畑の開拓、町割等を行い、また、五層の天守閣や櫓、門などを建造し近世城郭として整備をおこないました。城下町沼田の基盤を造り、ここに安泰の世をもたらしました。

真田氏家系図



沼田城天守推定復元図



- ①入母屋屋根
- ②鯨
- ③木連格子
- ④五重（六階）
- ⑤高欄
- ⑥外縁
- ⑦唐破風
- ⑧四重
- ⑨千鳥破風
- ⑩三重
- ⑪二重
- ⑫切妻破風の石落とし
- ⑬一重（一階）
- ⑭石落とし
- ⑮天守台石垣
- ⑯堀、内側は武者走り

信幸から

信之へ



真田氏の名を世に知らしめたのが、慶長五年（一六〇〇）の天下分け目の関ヶ原の戦いです。石田三成方についた父・昌幸、弟・信繁に対し、信幸は徳川家康方につきました。敵味方に分かれ戦うことになったのです。関ヶ原の合戦以後、信幸は真田家の通字「幸」を捨て、名を「信幸」から「信之」に改めています。



遺物出土状況

今回の調査では瓦が大量に出土しました。これらは堀に葺かれていたものと思われ、城破却時に廃棄されたと考えられます。正保城絵図によればこの付近に堀、石垣そして堀が描かれています。この他、調査により本丸堀の深さが何段階か変遷してる様子がうかがえました。

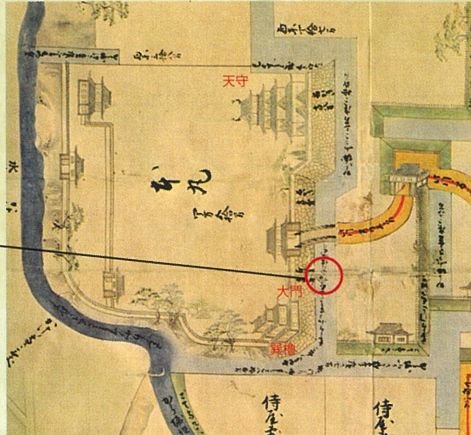
石垣の裏込めは、水はけをよくして石垣に余計な水圧がかからないようにするためのものです。正保城絵図の本丸堀の堀を見ますと、狭間が描かれております。狭間には鉄砲狭間や矢狭間などがあります。堀の中から外の敵に向かって矢や鉄砲を射かけるための穴です。

沼田城跡発掘調査

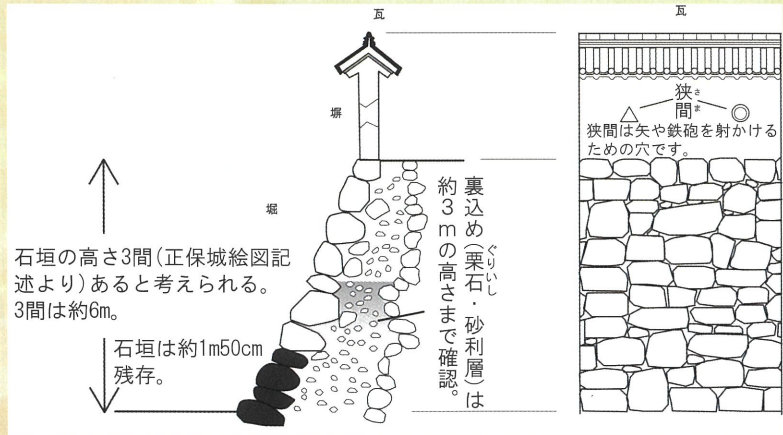
◆平成 27 年度 (2015) 調査 8 月から 9 月にかけて沼田公園長期整備構想に基づく発掘調査を行いました。



図 1 調査位置図



調査箇所は正保城絵図に当てはめてみますと大門の付近となります。なお、正保城絵図は 4 代真田信政の時代に幕府から提出を求められたもので、1644 年ごろに提出したと考えられています。調査の結果、石垣は堀底から約 1m50cm の高さまで残存し、約 3m の高さまで裏込めを確認しました。また正保城絵図に記された石垣の高さは 3 間（約 6m）という事を考慮しますと石垣は 1/4 ほどが残存し、そこから上は破壊されたと考えられます。



◆平成 28 年度 (2016) 調査 7 月 19 日～9 月 30 日の期間、天守推定地付近を約 300 m² 調査しました。結果、堀の上では石組遺構や何らかの穴を検出しました。遺物は五輪塔（墓石）の一部等が出土しています。縄文土器の破片が 1 点出土しており、この土地が縄文時代から何らかの形で利用されていた可能性があります。石垣そのものは発見できませんでした。遺物は大量の瓦が出土し、金箔や釘などの金属製品も出土しています。



本丸堀軒丸瓦出土状況

堀は深さ 10m 程度まで調査しましたが、堀底には到達せずこれ以上の発掘は危険なため調査を中止しました。正保城絵図には天守部分の本丸堀の石垣の高さが 8 間（約 16m）とあり、約 10m 発掘しても堀底に到達しなかつたという発掘結果もこの記述を裏付けるものと思われます。



その後の沼田城

真田氏改易後、真田領は一時的に代官支配となりましたが、元禄十六年（二七〇三）本多正永が幕府より沼田領を奉領し、城の復興を命ぜられ二万石で入封しました。しかし、城の本格的な復興はなされず、館御殿を造り、城破却で埋められた堀の整備や土塁の構築などが行われたのみでした。

本多氏三代のあとは再び代官支配となり、その後享保十七年（二七三二）黒田直邦が二万五千石で入封し、二代続きました。寛保二年（二七四二）には土岐頼稔が三万五千石で入封し、土岐氏は十二代頼知で明治維新を迎えて沼田城は廃城となりました。

現在の沼田城跡（公園）

現在、本丸・捨曲輪と二の丸・三の丸跡の一部が沼田公園となっています。本丸跡に西櫓台と石垣、本丸堀の一部がみられ、わずかに城の名残を留めています。

また、四季折々の花が咲き誇り、訪れる人々を楽しませています。本丸跡には鐘楼が再建され、真田信吉が鑄造させた城鐘（レプリカ）が吊り下げられ、朝夕六時に時を告げています。実物（県重文）は歴史資料館に展示しています。

市の木である「桜」や、「つつじ」また、四季折々の花が咲き誇り、訪れる人々を楽しませています。本丸跡には鐘楼が再建され、真田信吉が鑄造させた城鐘（レプリカ）が吊り下げられ、朝夕六時に時を告げています。実物（県重文）は歴史資料館に展示しています。



天空の城下町 沼田

北関東の軍事上の要衝であり、諸大名が欲しがった土地である

沼田氏と沼田城

沼田市は群馬県の北部に位置し、四方を山に囲まれた沼田盆地を中心として、三方に利根川・薄根川・片品川が流れ、特に片品川周辺には河岸段丘が発達しています。この段丘先端部(沼田公園)に最初に城を築いたのは、鎌倉時代以来この地方の有力者であった沼田氏十二代万鬼斎顕泰で、天文元年(一五三二)頃と云われています。

倉内城とも呼ばれたこの城は、北陸から関東へ至る要衝の地にあり、越後の上杉氏や小田原の北条氏、甲斐の武田氏などの戦国大名により激しい争奪が繰り返られることになりました。

天正八年(一五八〇)、武田勝頼の命により吾妻方面から進出してきた真田昌幸は沼田城を攻略し、さらに翌九年には沼田城の奪還に成功した沼田平八郎景義を謀殺して沼田氏を滅亡させました。しかしこれ以降、この地の領有を主張する北条氏とこれに応じない真田氏との間で沼田城をめぐる攻防が続きました。豊臣秀吉の裁定(惣無事令)により、沼田は北条領・名胡桃城は真田領とされましたが、不法に北条方が名胡桃城を攻略したことが契機となり、豊臣秀吉の小田原城攻めにより北条氏は滅亡しました。

信之を支えた、小松姫

徳川四天王の一人、本多忠勝の娘で、徳川家の養女として真田家に嫁ぎました。小松姫は才色兼備でしつかりとした女性であったことが次の逸話からうかがえます。親と子、敵味方に分かれ関ヶ原の戦いに挑むことになった時、沼田城にいた小松姫は沼田城に立ち寄った父・昌幸と、弟・信繁を受け入れませんでした。鎧に身を固め大手門に姿を見せ、
「たとえ父や弟でも今は敵…」と氣丈に振る舞ったといわれています。元和六年(一六二〇)に病により、療養のため江戸から草津に来る途中の二月二十四日に武蔵国鴻巣で没し(四十八歳)、分骨され同所の勝願寺・沼田の正覚寺・上田の芳泉寺にそれぞれ葬られました。

